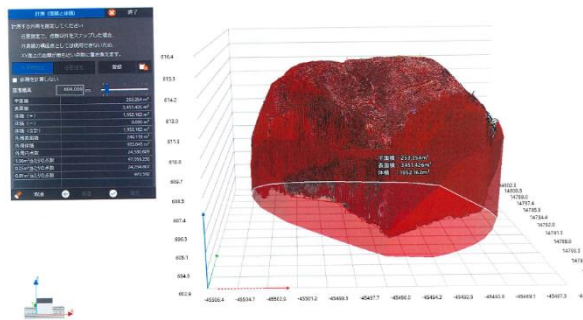


地域特性を生かした測量技術の発展**「地形地物の全方位3次元モデルに挑戦中」
山間部の地形に対して地上型とドローンを併用して完全計測**

ドローンによる撮影



3Dスキャナーによる測量

代表取締役 坂本 保（さかもと・たもつ）

当社は公共事業及び民間事業に係る建設コンサルタント、測量の委託業務を行っている。道路、河川、溪流、林道の公共工事に係る現地地形、縦横断、用地境界測量、土木設計等を実施している。

この業種は国の政策に大きく左右される業界。コロナ禍では先行きが不透明である。そのため最新技術の導入により他社との差別化や国のICT施工に対応することが必要となる。3Dレーザースキャナーのドローン搭載型及び地上型を併用し、地形地物の全方位3次元モデルを広範囲に敏速勝正確に構築することで、生産性向上、顧客満足度の向上、i-Constructionに対応していく。

地域特性に合わせた測量技術の発展

当社の立地は白山市鶴来であり、創業した昭和58年から多くの山間部を測量している。危険性や傾斜地といった測量の悪条件に対して、ドローン導入による安全・効率性の確保や地上型測量機でレーザースキャンが装備された機器を導入して対応している。ドローンで不得意な建物内や木で覆いかぶさる地面などは、地上型を用いるなど、危機による優位性を併用して事業を展開している。

今後の展開

ドローンに搭載できるレーザースキャナーは高価であり、県内企業でも数台しか保有していない。当社も搭載できるスキャナーは未導入であるが、業界の作業を一変させるような機器となっている。30年ほど前のパソコンによる手書きからCAD、手計算から自動へと進化したものと同じようなものであると考えられる。安全性や性能性、使いやすさなどが向上すれば、業界の課題である若手の確保にもつながることとなる。これからも最新機を積極的に導入し、山間部測量の発展に努めたい。

・受賞のポイント（審査員のコメント）

3Dレーザースキャナー搭載のドローンを活用して広範囲に敏速かつ正確・安全に測定できる事業は、働き手が少なくなっていく中で、必然性・必要性が高いビジネスである。先行投資が大きい、公共事業以外の民間事業へ展開することで事業拡大を期待する。